

平成14年度 日本臨床化学会関東支部幹事会議事録

日時：平成14年9月21日（土）午前10時30分から11時10分

場所：横浜市立大学医学部

出席者：中原（議長）、笠原、大澤、桑、戸谷、渡邊、家入、芳賀、西堀、
青木、池谷、池田、須郷、富田、久保野、山田、牧瀬、橋詰、眞重、
大久保
（敬称略）

報告・協議

1. 支部役員の確認と所属等の変更について（資料1）。
2. 幹事会の議事録の紹介（資料2）。
3. あり方委員会の報告
 - 1) あり方委員会のまとめについて戸谷委員より資料3-1を用いて報告が行われた。
 - 2) 関東支部内規について眞重委員より資料3-2を用いて報告が行われ、承認された。
 - 3) 集会のあり方について家入委員より資料3-3を用いて報告が行われ、承認された。
 - 4) 分科会のあり方について渡邊委員より資料3-4を用いて報告が行われ、承認された。
 - 5) 支部会誌のあり方について青木委員より資料3-5を用いて報告が行われ、以下の内容の討議の後に承認された。
 - ・電子媒体でもページ数を入れ、文献としての引用を可能にする。
 - ・別刷りを請求された場合、実費1000円にて別途に送付するようにする。
4. 平成13年度事業報告（資料4-1～4、資料5-1～2）
 - ・分科会の活動費の会計については本年12月末で締める。残った活動費は支部会計の学会事務センターに返却する。
5. 平成13年度決算報告が資料6-1、2を用いて行われた。笠原監事より監査報告があり、決算報告が承認された。
6. 平成14、15年度の事業計画について資料7を用いて報告が行われ、事業計画が承認された。なお、平成15年度以降の集会については日程が接近しないように調整することとする。
 - ・平成15年度学術総会を担当する戸谷幹事より挨拶があった。
 - ・平成15年度学術例会を担当する桑幹事より挨拶があった。
7. 平成14年度予算案が資料8を用いて報告が行われ、承認された。

文責 大久保

平成14年度 日本臨床化学会関東支部総会議事録

日時：平成14年9月21日（土）午前11時10分から11時30分

場所：横浜市立大学医学部

出席者：中原（議長）、笠原、大澤、桑、戸谷、渡邊、家入、芳賀、西堀、
青木、池谷、池田、須郷、富田、久保野、山田、牧瀬、橋詰、眞重、
大久保（敬称略）

報告・協議

1. あり方委員会で提案された、関東支部内規（案）、集会のあり方、分科会のあり方および支部会誌のあり方について報告が行われ、承認された。
2. 平成13年度事業報告が行われた。
3. 平成13年度決算報告が行われた。笠原監事より監査報告があり、決算報告が承認された。
4. 平成14、15年度の事業計画の報告が行われ、事業計画が承認された。
5. 平成14年度予算案の報告が行われ、承認された。

文責 大久保

平成 14 年度日本臨床化学会関東支部役員

支部長	中原 一彦	東京大学大学院
監事	内村 英正	鎮目記念クリニック
同	笠原 靖	(株)ビーアイシー
常任幹事	大澤 進	千葉大学医学部附属病院
同	小川 善資	北里大学医療衛生学部
同	加野 象次郎	東京逋信病院
同	桑 克彦	筑波大学医療技術短期大学部
同	須藤 加代子	国際学院埼玉短期大学
同	高木 康	昭和大学医学部
同	戸谷 誠之	昭和女子大学
同	中山 年正	(財)緒方医学化学研究所
同	渡邊 卓	杏林大学医学部
同	青木 芳和	(財)神奈川県予防医学協会
同	家入 蒼生夫	獨協医科大学
同	芳賀 利一	三井記念病院
同	眞重 文子	東京大学医学部附属病院
同	大久保 滋夫	東京大学医学部附属病院
同	西堀 眞弘	東京医科歯科大学
		以上 15 名
幹事	相澤 益男	東京工業大学大学院
同	青木 芳和	(財)神奈川県予防医学協会
同	芦原 義弘	富士レビオ(株)
同	家入 蒼生夫	獨協医科大学
同	池谷 均	神奈川リハビリテーション病院
同	池田 斉	埼玉医科大学総合医療センター
同	石橋 嘉一郎	栄研化学(株)
同	伊藤 啓	北里大学保健衛生専門学院
同	今井 一洋	東京大学大学院薬学系研究科
同	今井 恭子	日立製作所
同	今井 利夫	東邦大学理学部
同	入野 勤	埼玉県立大学短期大学部
同	鶴沢 龍一	昭和大学医学部
同	内村 英正	鎮目記念クリニック
同	梅本 雅夫	福祉医療技術振興会
同	浦田 武義	栄研化学(株)
同	大久保 昭行	財務省印刷局東京病院
同	大久保 滋夫	東京大学
同	大澤 進	千葉大学医学部附属病院
同	太田 拔徳	自治医科大学附属大宮医療センター
同	大竹 皓子	慶応大学
同	小川 善資	北里大学医療衛生学部

幹事	笠原 靖	(株)ビーアイシー
同	金島 才仁	三光純薬(株)
同	加野 象次郎	東京逋信病院
同	亀井 幸子	
同	久保 博昭	北里大学薬学部
同	久保野 勝男	(株)エスアールエル
同	桑 克彦	筑波大学医療技術短期大学部
同	小島 洋子	国立小児病院
同	小林 功	宏愛会第一病院
同	五味 邦英	昭和大学医学部
同	菰田 二一	埼玉医科大学
同	今野 稔	横浜市立大学浦舟病院
同	榊原 博一	埼玉総合リハビリテーションセンター
同	櫻林 郁之介	自治医科大学大宮医療センター
同	佐藤 悦子	(株)ヤトロン
同	芝 紀代子	東京医科歯科大学
同	須賀 哲弥	東京薬科大学
同	須郷 秋恵	横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター
同	須藤 加代子	国際学院埼玉短期大学
同	関口 光夫	日本大学板橋病院
同	高木 康	昭和大学医学部
同	高畑 藤也	(株)日立サイエンスシステムズ
同	田中 敬子	ロシュ・ダイアグノスティックス(株)
同	塚田 敏彦	虎の門病院
同	塚田 裕	(株)エスアールエル
同	戸谷 誠之	昭和女子大学
同	富田 耕右	関東学院大学工学部
同	中井 利昭	筑波大学臨床医学系
同	永井 良三	東京大学医学部
同	中尾 義喜	日立化成工業(株)
同	中原 一彦	東京大学医学部
同	中山 年正	(財)緒方医学化学研究所
同	西堀 眞弘	東京医科歯科大学
同	野村 護	第一製薬(株)
同	芳賀 利一	三井記念病院
同	橋詰 直孝	東邦大学医学部大橋病院
同	橋本 佳明	東京大学
同	畠 啓視	(株)三菱化学ビーシーエル
同	飯田 暢子	
同	引地 一昌	(株)エスアールエル
同	廣田 晃一	国立健康・栄養研究所
同	保崎 清人	実践女子大学生生活科学部
同	星野 忠夫	病態解析研究所
同	星野 忠	日本大学医学部
同	前田 昌子	昭和大学薬学部
同	前畑 英介	三井記念病院
同	牧瀬 淳子	横須賀共済病院

幹 事
同
同
同
同
同
同
同
同
同

牧野 鉄男
眞重 文子
松崎 廣子
松下 誠
松本 宏治郎
三浦 雅一
美崎 英生
山田 俊幸
横手 保治
渡辺 清明
渡邊 卓

神奈川県立衛生短期大学
東京大学医学部附属病院

埼玉県立大学短期大学部
東邦大学薬学部
(株)三菱化学ビーシーエル
旭化成(株)
自治医科大学
国際バイオ(株)
慶應大学医学部附属病院
杏林大学医学部

平成 14 年度 第一回日本臨床化学会関東支部常任幹事会議事録

日時：平成 14 年 3 月 29 日（金）午後 6 時～

場所：東京大学医学部附属病院検査部会議室

出席者：中原、青木、家入、桑、戸谷、須藤、中山、西堀、芳賀、渡辺、眞重、
大久保

欠席者：内村、大澤、小川、加野、笠原、高木

（敬称略）

協議

1.平成 14 年度の活動について

1)平成 14 年度総会について

(1)昨年の常任幹事会で、本年は 18th ICCC-Kyoto が行われるためすべての学術総会は中止することにした。しかし、支部総会は毎年開催しなければならないため、9 / 21（土）に横浜にて開催される日本臨床検査医学会関東・甲信越支部総会において日本臨床化学会関東支部の協賛にて本会の幹事会と総会を開催させていただける様に交渉中である。

(2)(1)について、出席の常任幹事の承認が得られた。

2)役員選挙について

本部の理事会が 5 / 11 に行われ、詳細なことが決定する。その決定後に準備を行うことにする。

2.あり方委員会の報告

1)戸谷委員長より答申書（資料：日本臨床化学会関東支部あり方答申書）の概要について説明された。

2)須藤委員より答申書内の支部組織のあり方について説明がされた。

(1)内規（案）の見直しについて、次のように訂正、追加および変更がされた。

第 4 条 追加：会費については細則に定める。

(1)本会（第 4 条 2 行目）→本支部会

(2)準会員（第 4 条 3 行目）→維持会員

(3)本会（第 4 条 5 行目）→本支部会

第 7 条 2.幹事は支部役員により推薦され、支部役員会の議を経て支部総会で承認を得たものとする。支部長がこれを委嘱する。

一部改訂は総会で承認された日付けとする。

平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

申し合わせ 「1.支部会費」の項は細則とする。

1. 支部会費の 2)の準会員を維持会員にする。
3. 4)支部幹事は原則として就任時 65 才以下とする。

(2)会員の発掘、関連学会との交流および組織図の作成については継続的に行うことが提案された。

(3)内規（案）を訂正、追加および変更の内容を整理して次回に提出する。

3)家入委員より学術総会のあり方について説明がされた。

・学術集会は年 2 回とし、総会と例会にすることにした。

4)渡邊委員より分科会活動のあり方について説明がされた。

・従来の分科会に変わる新しい発想で柔軟な形の分科会としたい。

・その活動の中心となる分科会活動実行委員会（**Organizeing and Advisory Committee**）をどのように作り、どのようにするかの方角性および、現状の分科会からどのように新しい分科会活動に移行させるかの素案を渡邊委員を中心に委員会の **sub-committee** にて引き続き検討し、次回の常任幹事会にて提案する。

・現状の分科会は平成 14 年度については休眠中のものはそのままとし、総会にて承認後に直ちに活動中のものは継続し立ち上げる。当面、分科会活動実行委員会は委員会の **sub-committee** が行うことを了承した。

5) 支部会誌のあり方については青木委員より報告された。

・本あり方委員会からは基本理念が示されるに止まっているので、実行に移すには、具体的な予算などを事務局が調べる事となった。さらに、委員会の **sub-committee** において、委員に西堀先生を加えて青木委員を中心に支部会誌のあり方について実効性のある内容への検討を行い、次回の常任幹事会にて提案する。

6)常任幹事に教育担当の委員会を設けることを次回の常任幹事会で検討する。

3.その他

1)平成 15 年度学術総会は戸谷先生が会長で行われる。要旨集作成経費の負担区分については支部経費を調べて、次回に検討する。例会は次回に候補を検討し、総会時に承認を受ける。

2)IFCC は現在、682 題である、できれば 750 題集めたい。一日会員でも参加は可能である。

3)5/11 に拡大の理事会が行われる。10/20 に評議委員会、10/22 総会が開催される。

4)次回の常任幹事会を 5 / 1 7（金）午後 6 時から、東大病院にて開催を予定

する。

文責 大久保

第二回 日本臨床化学会関東支部常任幹事会議事録

日時：平成14年5月17日（金）午後6時～

場所：東京大学医学部附属病院検査部会議室

出席者：中原、青木、家入、笠原、戸谷、西堀、芳賀、眞重、大久保

欠席者：内村、大澤、小川、加野、桑、高木、須藤、中山、渡辺

（敬称略）

報告・協議内容

1. 平成14年度支部総会について

9/21（土）に横浜にて開催される日本臨床検査医学会関東・甲信越支部総会（会長：横浜市大 伊藤章先生）が日本臨床化学会関東支部の協賛にて行われることが決定した。以下の時間において本会の幹事会と総会を開催させることが決定した。

2. あり方委員会の報告

1)内規（案）について、下線部分の訂正、追加が行われた（資料1）。

2)青木委員より支部会誌のあり方について提案され、従来の報告内容が以下のように改定された。

【支部会誌の形態、体裁】

支部会誌の形態は経費、出版の利便性を勘案して電子媒体とし、支部のホームページの中に作る。また、支部会誌には電子媒体の利点を生かして論文検索機能を持たせる。

支部会誌が従来担っていたニュースレターとしての役割は支部会誌と分離する。

【発行頻度】

支部会誌は論文が集まり次第随時発行する。

【ホームページなど】

ニュースレター等は支部のホームページ上に支部会誌とは別途作成する。

【その他】

支部会誌の編集・発行には編集委員会を組織し、編集責任者や委員を決める必要がある。また、必要に応じて事務局から会員宛にメールを発行し、支部会誌やニュースレターが発行されたことを周知する。

- ・ 常任幹事会において 4 人の委員を編集委員会準備委員に承認し、委員会で、実現に向けての詳細な運営方法（参加できない会員への対応、論文の査読の方法など細々）についての案を検討してもらう。
- ・ 総会の案内の送付時に会員のメールアドレスを確認する。

3) 大久保より新分科会活動への移行についての素案が提案された。

- ・ 移行させるための具体案と次ぎの内容への対応について今度、引き続き検討していくこととした。
 - (1) どうして見直しが必要になったのかの考察。
 - (2) 本会の専門委員会との活動の係をどのようにしていくかの具体案。
- ・ 平成 14 年度の活動は従来通り、継続して行うことが確認された。

4) 教育担当の委員会を設けることの検討

- ・ 継続審議とする。

3. その他

1) 平成 15 年度学術総会の要旨集作成経費について

- ・ 開催の日程は第一候補は 5 月 24 日で第二候補を 6 月 14 日とする。日本医学検査学会等の日程を配慮してから開催日を決定する。
- ・ 要旨集作成については電子媒体を利用するようにする。

2) 平成 15 年度学術例会の担当候補者の検討

- ・ 桑先生が例会の担当候補者に推薦された。

3) 拡大理事会の報告

大久保より 5 月 11 日（土）に開催された拡大理事会の内容が報告された。

4) 昨年度決算書の承諾

- ・ 決算書の承諾が得られた。

5) 本年度予算書の承諾

- ・ 業務委託費の内容について学会事務センターに再確認を行う
- ・ 予算書の承諾が得られた。

6) 総会開催時の幹事会の取り扱いについて

- ・ 総会開催時に幹事会がある時は常任幹事会を行わないこととするを確認した。

7) 次回の常任幹事会を 7 月下旬、または 8 月に、東大病院にて開催を予定する。

文責 大久保

第三回 日本臨床化学会関東支部常任幹事会議事録

日時：平成14年9月3日（火）午後7時～

場所：東京大学医学部附属病院検査部会議室

出席者：中原、青木、笠原、桑、須藤、戸谷、中山、西堀、芳賀、渡辺、眞重、
大久保

欠席者：家入、内村、大澤、小川、加野、高木

（敬称略）

報告・協議内容

1. 平成14年度支部総会について

・9/21（土）に横浜にて開催される日本臨床検査医学会関東・甲信越支部総会（会長：横浜市大 伊藤章先生）が日本臨床化学会関東支部の協賛にて行われる。以下の時間において本会の幹事会と総会を開催させる。

幹事会：10:30～11:10 総会：10:10～10:30

- ・総会時は常任幹事会を行わない、幹事会のみとする。
- ・委任状をとっていない。今後、総会開催時の委任状の取り扱いについて継続して審議したい。

2. あり方委員会の報告

1)内規（案）について、次ぎのように下線部分についての訂正、追加が行われた。

第4条 （1）正支部会員：本支部会の会員である者 → 本会

平成 14年 4月1日 一部改定 → 平成 14年 9月28日 一部改定

第5条 2. 支部は、支部を。 → 支部活動を

なお、今回の内規の改定で議論されたのは必要最小限の内容についてである。さらに組織図や支部会員の定義などの詳細の内容は継続の審議とする。

2)渡邊委員より新分科会活動への移行について提案について資料を用いて説明がされ、承認された。さらに次の内容が議論され追加、確認された。

- ・運営委員の任期は原案通り4年で2年毎で改選される。ただし、再任も認めることとする。当初の運営委員は4年、6年の任期で運営される。
- ・運営委員会に常任幹事の1人を運営委員会の担当として加え運営委員会をマネジメントする。
- ・運営委員は新しい支部役員会を通じてを募集し、役員会で決定する。
- ・予算については流動性を保つ。

- ・従来の分科会は解散し、継続を希望する場合は新たな活動としてスタートする。
- ・総会で承認後に新分科会の公募を行う。その際、数件と費用についてアナウンスがあった方が良い。
- ・具体的な実施についての内容を継続して渡邊委員を中心に補充する。

3)青木委員より支部会誌の電子媒体による具体的に発行の規定内容が資料を用いて提案がされた。さらに次の内容が議論され追加、確認された。

- ・会誌の主旨は若手会員の育成に重点を置いた速報誌とする。
- ・査読審査の過程は掲載しない。
- ・会誌の事務局およびは編集委員長は西堀委員に依頼して編集委員を数名選んで頂く。青木委員は常任幹事会との連絡担当として編集委員に参加する。任期は4年で行う。
- ・会誌の名称は変更し、「日本臨床化学会関東支部会雑誌」とする。

3. その他

1)平成 15 年度学術総会について戸谷委員より報告がされた。

開催は平成 15 年 5 月 24 日（土）で昭和女子大学のオーロラホールにて開催を予定する。幹事の方々に実行委員を委嘱したい。スケジュールは午前に事務会議、午後より総会を行う。三時のおやつを大きく行い、懇親会は行わない。

2)平成 15 年度学術例会について桑委員より報告がされた。

開催は平成 15 年 9 月 27 日（土）で神田の島津製作所東京支社のイベントホールにて開催を予定する。スケジュールは午後より例会を開始する。

文責 大久保

日本臨床化学会関東支部あり方検討委員会答申（冒頭の抜粋）

日本臨床化学会関東支部では学会創立 35 年を経過し、さらに 21 世紀を迎え新しい時代背景の下で学会支部としてのあるべき姿の見直しを求める声の一部の会員の中から示された。このことを反映して支部常任幹事会においてその対応を検討した。その結果、アドホックな組織として、あり方検討委員会を発足してこの問題に対処することになった。このような経緯から当あり方検討委員会は平成 13 年度当初に組織された。この委員会は後述する 8 名の委員で構成される統括委員会と個別課題についての作業部会を構成して、以下の経過を経て提案を取りまとめた。

当委員会の統括委員会議は平成 13 年の 4 月 26 日、5 月 24 日、6 月 14 日と、平成 14 年 3 月 11 日の 4 回に渡り開催した。この会議では以下に示した 4 課題を柱とすることとして、各課題についての検討作業を行った。しかし、予定した 3 回の統括委員会議では各課題別の内容の細部に至る議論は困難であるとの結論となったので、第 2 回ならびに第 3 回の統括会議に先だっては、個別の課題についての素案作りを目的とする個別課題作業部会を開催して円滑に作業を進展させる方式を図った。これらの作業員会にはあり方検討委員のほか、若干名の支部会員に委員としての参加をお願いした。この委員の名簿は項末に示した。

上述の作業部会とは 1. 支部組織のあり方についての組織部会、2. 学術集会の目的とあり方についての学術集会部会、3. 分科会活動の目的とあり方についての分科会部会、4. 会誌のあり方について支部会誌部会の 4 部会である。それぞれの作業部会には総合会議メンバーが分担すると共に一部の総合会議メンバー外からの作業部会参加も求めた。

第 1 回の統括委員会の議論の中では、総合的な視点からこれまでの会務のあり方には機能性や経済性、など多くの点から相対的に疲弊が見られるとの結論に達した。従って、これまでの組織構成や事業推進などには抜本的な変更を加える必要があるとの考えに達した。しかし、現実にはこれまでの規則や予算的措置により活動中もしくは活動計画準備中の点も多々見られる。そこで、当委員会では少なくとも 2 段階以上の見直し計画を立案することが必要との認識に至った。

このような議論に基づき各作業部会は以下に示すあり方案を取りまとめることとした。さらに、第 4 回の会議では全般的な調整の会議を持ち本答申を提出するに至った。なお、本答申は支部活動に総括的な支柱あるいは方向性を示すものであり、その具体化においてはその時点における状況に見合った細部調整が必要であることを付言する。

1. 支部組織のあり方について

2. 学術集会について

3. 分科会活動について

4. 支部会誌のあり方について

関東支部あり方検討委員会の委員名及び担当

座長： 戸谷誠之

- (1) 組織作業部会： 須藤加代子*、真重文子、(島 幸夫)
 (2) 学術集会作業部会： 家入蒼生夫*、青木芳和
 (3) 分科会作業部会： 渡辺卓*、大久保滋夫、芳賀利一、(真々田賢司)
 (4) 支部会誌作業部会： 青木芳和*、(小川善資、久保野勝男)

*：作業部会責任者、（）：作業部会補助メンバー

日本臨床化学会関東支部内規（案）

第1条 本支部は、日本臨床化学会（以下本会と略す）支部規定により日本臨床化学会関東支部（以下支部と略す）と称する。

第2条 支部は、関東地区における本会の目的達成のために事業を行う。

第3条 支部は年一回の総会を開催し、前年度の事業報告、決算報告および新年度の事業計画、予算、その他の必要な事項を審議する。

2. 支部は、原則として毎年一回以上の例会を開催し、会員の研究発表などを行う。

第4条 支部の会員は、次の3種とする。

(1) 正支部会員：本会の会員である者

(2) 維持会員：臨床化学に関連した科学産業に関係を持つ団体（または個人）、および、支部の事業目的に賛同する団体（または個人）

(3) 有功会員：本支部会に対し功労のあった65才以上の正支部会員で、この会の目的に賛同し、支部役員会において承認された者

第5条 支部は、支部長1名、監事2名および支部幹事（以下幹事と略す）若干名をおく。

2. 支部は、支部活動を円滑にするため、支部常任幹事（以下常任幹事と略す）若干名をおくことができる。

第6条 支部役員は、本会支部規定第6条に定める職務を行う。

第7条 支部長並びに監事は、幹事の選挙によって選出され、支部総会にて承認する。支部長は本会会長がこれを委嘱する。

2. 幹事は支部役員により推薦され、支部役員会の議を経て支部総会で承認を得たものとする。支部長がこれを委嘱する。

3. 常任幹事は、幹事の中から支部長が委嘱する。

第8条 支部長並びに監事の任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

2. 幹事の任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

3. 役員欠員補充は、支部役員会で支部会員より選出され、支部長が委嘱する。補充による役員の任期は、前任者の残留期間とする。

4. 役員は、辞任または任期満了の場合においても、後任者が就任するまでは、その義務を行わなければならない。

第9条 支部役員で支部役員会を構成し、諸般の支部会務を審議し執り行う。

支部役員会は、必要に応じて支部長がこれを招集する。

第10条 支部の事業事務の遂行を円滑にするため、支部長は第9条の他に委員会を設置することができる。

第11条 支部の事業年度は、毎年4月1日に始まって3月31日に終わる。

第12条 支部内規の改訂は、支部役員会の議を経て支部総会および本会理事会の承認を得る。

（付則） 1. 支部の事務局は（財）日本学会事務センター東京事務所内におく。

平成 3 年 3 月 9 日 制定
平成 14 年 9 月 28 日 一部改定

日本臨床化学会関東支部に関する細則

1. 支部会費

- 1) 正支部会員は支部会費（通信費を含む）年額 2, 0 0 0 円を収める。
- 2) 維持会員は会費年額 1 口 3 0, 0 0 0 円を 1 口以上納める。
- 3) 有功会員は会費を納めることを要しない。

日本臨床化学会関東支部に関する申し合わせ

1. 支部長選出に関する申し合わせ

- 1) 支部長は本会会則 2 0 条により本会評議員の内より選出される。
- 2) 本会会則 1 4 条により理事は評議員を兼ねることは出来ない。
従って本会理事に選出された場合は支部長の被選挙権はなくなる。
- 3) 理事の任期終了時には支部長の被選挙権は回復する。
- 4) 支部長は本会役員選挙の終了後に決定される。

2. 支部幹事選出に関する申し合わせ

- 1) 支部幹事の総数は、原則として正支部会員数の 1 0 % 前後とする。
- 2) 支部幹事候補者は原則として 2 年以上の本会会員歴を有するものとする。
- 3) 本会評議員は原則として支部幹事に推薦する。
- 4) 支部幹事は原則として就任時 6 5 才以下とする。

「臨床化学会関東支部会 “ありかた委員会” “subcommittee 支部例会” の検討事項に関する報告

“ありかた委員会” 委員および何人かの会員の意見をききながら青木芳和委員と家入が検討を行った。

現在の年 4 回の集会（総会 1，例会 2，地区会 1）は，2 回に減らすのが適当である。実施時期は 2003 年度からとする。

この場合，1 回は総会，もう 1 回は分科会の合同委員会のような内容にする。いずれの集会も教育的要素を加味したものにする。

集会の回数を減らした分，境界・関連領域のみならず異なった分野・内容を伴う内容のプログラムにして，多数の参加者を得ることも考慮する。

本学会への参加が，各学会の認定更新のための単位・点数になるシステムとすることも今後検討する。

他の関連学会（臨床検査医学会，臨床検査自動化学会，臨床衛生検査技師会，薬学会，分析化学会など）と連携した集会の開催も考慮する。これらはお互いに同じようなテーマをもって活動している部分があるので，連携して集会を開催することを進める。これを実現させるには，全国学会との関連もあるので，学会のトップ同士の協議が必要と思われる。

病院勤務の技師の場合，年間出張できる回数も限られていることから，日程・内容の調整・伝達がある程度できると，1 回当たりの参加者が増加するかもしれない。

（文責：家入）

日本臨床化学会関東支部分科会活動見直し案

分科会の位値付け：

従来、当支部ではいくつかの常設分科会を置き、日本臨床化学会本会の活動との整合性をもはかりつつ、活動の具体的なテーマは各分科会に任されるかたちで運営され、多大な成果をあげてきた。しかしながら、臨床化学をとりまく環境の急速な変化により即応した分科会活動を推進するべく、常設の分科会を廃止し、数年単位でのプロジェクト型の活動形態へと転換をはかることを提案する。具体的には、公募により 4 乃至 5 程度の分科会を置き、夫々特定のテーマに関する研究・調査等を行う。新たな分科会制度では、臨床化学における諸問題の解決をめざすという当学会の社会的責任の追究の一環としての意義を有することはもとより、将来にわたって当支部の高い活動性を維持するべく、若手学会員の教育の場という大きな意味を持たせるものとする。

分科会具体案：

各分科会は通常 2 年（最大 3 年）を活動期間とする。分科会の設置は「分科会活動実行委員会」（後述）による公募、選考による。若手会員の積極的な参加を促すとともに、委員会としても思い切って若手に委嘱する姿勢を堅持する。標準化を中心とした分科会を 2 つ程度、それ以外の自由な研究・調査に関する分科会を 2 つ程度置く。複数施設に所属する会員の共同研究が望ましい。設置の決まった分科会についてはそのテーマ等を何らかのかたちで会員に公示し、関心を持ってここに参加を希望する会員があればこれを受け入れることとする。分科会是一件、年間 10 万円程度（この金額については支部予算とのかねあいもあり要検討）の予算配分を受けることができる。各分科会は「分科会活動実行委員会」と密接に連携をとって活動を進めることとする。すなわち、各分科会はその活動状況を「分科会活動実行委員会」に適宜報告し、そのアドバイスをうけることとする。また、研究期間終了時には成果報告書を「分科会活動実行委員会」に提出する。これとともに、各分科会は、その活動経過、活動成果を支部集会の場で公表する義務を負う。

「分科会活動実行委員会」について：

5~6 名程度の委員により構成する。この委員メンバーは、会員の自薦、他薦

に基づき、最終的には幹事会で決定する。メンバーは必ずしも幹事である必要はない。メンバーはできるかぎり中堅レベル（イメージとしては 30 才台後半から 40 台まで）の会員であり、標準化を含む臨床化学各分野での見識と活動実績を有する者とする。メンバーの任期は 4 年程度とする。長期的には 2 年毎に半数を改選するかたちとし、委員会としての継続性を保つのが好ましい。

分科会活動委員会の役割：

- ・分科会活動として行うべき研究・調査に参加を希望するテーマ / グループの募集、選考を行う。4 月からの分科会活動の開始を目標に、前年の秋頃より公募、選考の活動を開始する。標準化に関するテーマを 2 件程度、それ以外の自由テーマをやはり 2 件程度選考する。特定の研究テーマに関して、適当な（特に多施設間での）研究グループの設定に関するアドバイス等も積極的に行う。

- ・支部予算において計上される分科会活動費を支部より一括して受け取り、各テーマ / グループの研究内容、進行度等を勘案してその予算配分を行う権限を持つ。

- ・各研究テーマに関して、その進行度のチェックを定期的に行うとともに、研究遂行上の諸問題に関するアドバイスを積極的に行う。

- ・各研究テーマの活動状況を定期的に支部幹事会ならびに支部長に報告する。また、各研究テーマの終了時にはその成果を同様に報告する。

その他：

分科会活動で得られた優秀な成果は、支部として優先的に学会賞などへの推薦を行うなど、分科会活動への参加者に何らかの incentive を与える努力をする。

2002 年 9 月 21 日

日本臨床化学会関東支部総会
支部会誌分科会

青木 芳和、小川 善資
久保野勝男、西堀 眞弘

あり方委員会 支部会誌分科会報告書

【支部会誌の存続と役割の検討】

現在発行されている支部会誌は投稿数も減少し、また、編集・発行の費用も集めにくくなっていることから、支部会誌のあり方について検討した。その結果、以下の趣旨から支部会誌は存続させることになった。

1. 若い会員の育成に重点を置いた速報誌とする。
2. 分科会活動の成果の発表の場とする。
3. 科研費、厚生科学研究の発表の媒体として役立ててもらう。

【支部会誌の形態、体裁】

誌名を「日本臨床化学会関東支部会誌」とする。電子媒体による発行とし、支部のホームページの中に作る。ニュースレターは支部のホームページ上に別途作成する。

【発行頻度】

論文が集まり次第随時発行する。

【発行のための組織等】

1. 編集委員会：編集委員会は編集委員長と編集委員若干名、事務局で組織し、「日本臨床化学会雑誌編集マニュアル」(案)に準拠して編集・発行の実務を担当する。編集委員の任期は 4 年とする。
2. 査読：査読は「日本臨床化学会関東支部雑誌査読規定」(案)に従って査読する。基本的に掲載する方向で査読、審査する。査読委員はあらかじめ専門分野ごとに設定し、関東支部評議員に優先して担当していただく。
3. ニュースレター：支部会誌とは分離し、別紙の「日本臨床化学会関東支部ニュースレター投稿規程」(案)、「同 編集マニュアル」(案) に準拠して編集、発行する。

【ホームページ上に掲載されている関東支部編集準備委員会(案) 投稿規程、編集マニュアル、査読規定、見本誌 等】

下記のホームページ上に作成されていますので、ご覧ください。

http://jscc-kanto.umin.ac.jp/c_edit.html

http://jscc-kanto.umin.ac.jp/c_edit.html#関東支部雑誌バックナンバー

以上

平成13年度 関東支部事業報告

1. 第11回 日本臨床化学会関東支部学術総会

日時 平成13年6月16日(土) 13:00~17:40

総会長 前田昌子(昭和大学 薬学部)

会場 昭和大学上篠講堂

特別講演 「完全長 cDNA からみたヒトゲノム遺伝子」

菅野 純夫(東京大学医科学研究所)

シンポジウム

①「NASBA の原理とその応用」 宇治家武史 他((株)カイノス)

②「TaqMan PCR 法による遺伝子発現及び SNP の解析」

細野 直哉(アプライドバイオシステムズジャパン(株))

③「LAMP 法の原理と『簡易、迅速、安価、精確』な遺伝子検査法」

高野 弘(栄研化学(株))

④増幅技術の応用 ~ 核酸の新しい機能: アプタマー

西川 諭(独立行政法人 産業技術総合研究所)

⑤溶解液を用いる全血からの迅速高濃度DNA抽出法の検討

塚田 敏彦(虎の門病院) 猪狩 淳(順天堂大学医学部)

参加者: 234名

☆支部常任幹事会、幹事会および総会を開催

2. 第20回・第21回関東支部合同学術例会

日時 平成13年10月6日(土)

例会長 第20回西堀眞弘(東京医科歯科大学医学部附属病院検査部)

第21回渡邊 卓(杏林大学医学部臨床病理学)

会場 東京医科歯科大学1号館9階特別講堂

【教育講演 I】

「健康と活性酸素: スーパーオキシドディスムターゼ(SOD)を中心として」

大野秀樹先生(杏林大学医学部衛生・公衆衛生学教授)

【教育講演 II】

「次世代携帯電話とブロードバンドネットワークが拓く未来社会」

西堀眞弘(東京医科歯科大学医学部附属病院検査部)

【関東支部フォーラム】

「臨床化学の今日と明日を語ろう」

指定発言: 大久保滋夫先生(東大病院検査部)、久保野勝男先生(SRL

医科学分析センター)、木村 聡先生(昭和大学横浜市北部病院臨床検査部)

参加者数：19名

3. 平成13年度関東支部地区会

日時 平成13年11月24日(土) 14:00～

地区会長 羽角 安夫(佐野厚生総合病院 検査科)

会場 栃木県立がんセンター 3階講堂

【教育講演】(2:00～3:00)

司会 佐々木 勝一先生(自治医科大学附属病院 臨床検査部)

「サイログロブリン異常症の遺伝子診断」

菱沼 昭先生(獨協医科大学臨床医学講座助教授)

【知っておきたい情報】(3:10～5:00)

司会 澤田 威男先生(自治医科大学附属病院 臨床検査部)

「汎用自動分析装置の性能評価」

飯塚 儀明先生(筑波大学附属病院検査部)

司会 菊地 弘好先生(佐野厚生総合病院 検査科)

「全自動免疫測定装置とその専用試薬による血中甲状腺ホルモン
測定の精密度評価」

高橋 和男先生(獨協医科大学病院臨床検査部)

司会 根岸 博先生(群馬県済生会前橋病院 検査科)

「検査室評価の試み」

関根敏治先生(株式会社エイアンドティー)

参加者数：40名

4. 日本臨床化学会関東支部会誌 第10巻1号 平成13年6月1日発行

5. 支部の今後について検討することを目的に『日本臨床化学会関東支部あり方検討委員会』(座長：戸谷誠之)を設けた。平成13年6月16日に開催された第11回 日本臨床化学会関東支部学術総会(昭和大学 薬学部)において中間報告が答申された。

6. 『日本臨床化学会関東支部あり方検討委員会』(座長：戸谷誠之)より平成14年3月29日に開催された支部常任幹事会(東大病院)においてに最終報告が答申された。

第 1 1 回関東支部学術総会 参加状況並びに会計報告

集会長： 前田 昌子（昭和大学薬学部）

日時： 平成13年6月16日（土）13時～20時

会場： 昭和大学 上條講堂

* 日本臨床化学会関東支部常任幹事会、幹事会及び総会を開催

* 学術総会参加者： 234名

A. 参加状況

病院関係		
大学病院・研究機関	27	
一般病院・検診センター	14	
主催者	16	
顧問・OB（無料）	5	
企業関係		89
招待講師など（無料）		8
学生（無料）		75
合計		234

B. 会計報告

収入

項目	単価	数	小計
関東支部より			200,000
協賛金		7 社	100,000
参加費	1,000	146	146,000
予稿集代	1,500	36	54,000
懇親会費	3,000	33	99,000
解約利子			14
収入合計			599,014

支出

項目	単価	数	小計
ポスター印刷代			21,765
会員ラベル出力代		1	12,059
ポスター他郵送代			9,600
講演謝礼		5	150,000
講師座長交通費		2	20,000
座長謝礼		3	30,000
昼食代	1,000	13	13,000
懇親会	5,000	60	300,000
学生アルバイト代	5,000	8	40,000
文具等雑費			2,275
銀行手数料			315
支出合計			599,014

日本臨床化学会 関東支部 第 20 回、第 21 回支部合同例会報告書

日時：平成 13 年 10 月 6 日（土）、午後 1 時～午後 4 時 30 分

会場：東京医科歯科大学 1 号館 9 階特別講堂（東京都文京区湯島 1-5-45）

参加者数：19 名

例会世話人：西堀眞弘（東京医科歯科大学医学部附属病院検査部）

渡邊 卓（杏林大学医学部臨床病理学）

内容：

【教育講演 I】

「健康と活性酸素：スーパーオキシドディスムターゼ（SOD）を中心として」

大野秀樹先生（杏林大学医学部衛生・公衆衛生学教授）

【教育講演 II】

「次世代携帯電話とブロードバンドネットワークが拓く未来社会」

西堀眞弘（東京医科歯科大学医学部附属病院検査部）

【関東支部フォーラム】

「臨床化学の今日と明日を語ろう」

指定発言：大久保滋夫先生（東大病院検査部）、久保野勝男先生（SRL 医科学分析

センター）、木村 聡先生（昭和大学横浜市北部病院臨床検査部）

会計報告：別紙参照

第20・21回支部例会会計報告

〈収入〉

病態解析分科会予算より	43,220
検査情報システム分科会予算より	53,528
合 計	96,748

〈支出〉

年	月	日	摘要	支出	累計
13	9	21	会員住所ラベル代	10,910	10,910
	9	21	振り込み代	105	11,015
	10	5	封筒	100	11,115
	10	6	講演謝礼	30,000	41,115
	10	6	会議飲み物代	2,105	43,220
	10	17	開催案内状作成・郵送費(650部)	46,150	89,370
	10	17	振り込み手数料	420	89,790
	10	17	例会会場(東京医科歯科大・特別講堂)使用料	6,958	96,748
			支出合計		96,748

平成 13 年度 日本臨床化学会関東支部 地区会資料

日 時：平成 13 年 11 月 24 日(土) 午後 2 時～午後 5 時
会 場：栃木県立がんセンター 3 階講堂
(栃木県宇都宮市陽南 4-9-13)

プ ロ グ ラ ム

【教育講演】(2:00～3:00)

司会 佐々木 勝一先生(自治医科大学附属病院 臨床検査部)

「サイログロブリン異常症の遺伝子診断」

菱沼 昭先生(獨協医科大学臨床医学講座助教授)

【知っておきたい情報】(3:10～5:00)

司会 澤田 威男先生(自治医科大学附属病院 臨床検査部)

「汎用自動分析装置の性能評価」

飯塚 儀明先生(筑波大学附属病院検査部)

司会 菊地 弘好先生(佐野厚生総合病院 検査科)

「全自動免疫測定装置とその専用試薬による血中甲状腺ホルモン測定の精密 度評価」

高橋 和男先生(獨協医科大学病院臨床検査部)

司会 根岸 博先生(群馬県済生会前橋病院 検査科)

「検査室評価の試み」

関根敏治先生(株式会社エイアンドティー)

【会計報告】

講師料	菱沼	昭	先生	20,000 円
	飯塚	儀明	先生	15.000 円
	高橋	和男	先生	10.000 円
	関根	敏治	先生	10.000 円
			合計	55.000 円

以上です。

栃木県佐野市堀米町 1555

佐野厚生総合病院 検査科

羽角安夫

電話 0283-22-5222 (内)527

平成 13 年度日本臨床化学会関東支部分科会活動報告

1. 血液ガス・電解質分科会（会長：桑 克彦、筑波大学医療技術短期大学部）

1. 血液ガス、金属イオン測定用の標準物質の作製
血液ガス(pH, pCO₂, pO₂)測定用及び金属イオン（総 Ca, 総 Mg、鉄）測定用の実試料標準物質を作製した。
2. 血液ガス測定の正確さの把握を標準物質を用いて行った。
3. 血液ガス(pH, pCO₂, pO₂)測定用標準物質についてのドキュメント案を作成した。

・特記事項

血液ガス測定用の標準物質(pH, pCO₂, pO₂)が、日本医師会の精度管理調査をはじめ、地区の精度管理調査に利用されるようになった。

2. 標準分科会（会長：中山 年正、（財）緒方医学化学研究所）

1. HbA1c 測定のための測定体系に従って、一次および二次標準物質の性能規格を設定し、これに基づいて一次および二次標準物質を設定した。
2. JSCC 標準法案の設定
測定体系に従って、JSCC 標準法案を準備した。
3. JDS の標準化委員会の標準品 Lot 2 の設定作業を担当した。

・特記事項

1. 前年度に引き続いて HbA1c 測定のための標準化作業を行った。本検討作業は JSCC のプロジェクトのもとに行っており、また、IFCC の HbA1c 標準化 WG とも連絡して進めている。
2. JDS の一次キャリブレーションの Lot 1 から Lot 2 への更新に伴う、標準品の作製および値付け作業に協力した。

3. クオリティ・アシュアランス分科会（会長：大澤 進、千葉大学病院）

1. 精密さ・正確さを管理するための内部精度管理血清の研究
2. 検査データの統一化の調査

4. 分析技術分科会（会長：芳賀 利一、三井記念病院中央検査部）

1. 平成 13 年度に「分析技術分科会」の定例会を 12 回行った。
(2/1,3/1,4/5,5/10,6/7,7/5,9/6,10/4,12/6,1/8,2/12,3/12)
2. LD JSCC 常用基準法の改訂案の策定とそのための実験の実施。
3. AMY IFCC 勧告法の問題点として指摘された①基質の純度、②基質の安定性、pH の影響等についての追試及び確認。
4. 定量検査における最小測定限界（検出限界、定量限界、実行感度等）について ISO、IFCC、NCCLS、JSCC(案)の評価法の追試及び確認。
5. 常用基準法に用いる専用分析機の開発について

・特記事項

- 1.LD JSCC 常用基準法の改訂案の策定とそのための実験結果について、第 21 回日本臨床化学会夏期セミナー(7 月 18 日~20 日、滋賀県大津市)で報告した。
 - 2.LD JSCC 常用基準法の改訂案(最終案)を酵素専門委員会に提出した。
 - 3.AMY IFCC 勧告法の問題点の実験結果について、第 21 回日本臨床化学会夏期セミナー(7 月 18 日~20 日、滋賀県大津市)で報告した。
- 5.遺伝子分科会 (会長：内村 英正)
- 1.第 39 回 電気泳動法講習会 協賛度活動内容：
 - 2.神奈川技術アカデミー教育講座 後援
- 6.免疫化学分科会 (高木 康、昭和大学医学部臨床病理)
- 1.精度管理調査における抗体価測定の問題点
 - 2.免疫測定法に影響を及ぼす血中微量成分
- 7.検査情報システム分科会 (会長：西堀眞弘、東京医科歯科大学検査部)
- 1.病態解析分科会 (渡邊卓分科会長) と共同で、2001 年 10 月 6 日に第 20 回・第 21 回合同例会を開催した。新たな試みとして、参加費の無料化とフォーラム「臨床化学の今日と明日を語ろう」の開催を企画し、活発な議論が交わされ成功裏に終了した。 [西堀]
 - 2.第 20 回・第 21 回合同例会の記録を掲載した以外は、事務局や他の分科会からの協力が殆ど得られず、ホームページの更新はできなかった。
- ・特記事項
- 何の通知もなく本部のホームページに関東支部のエリアが設けられ、当分科会員の関知しない内容が掲載されるなど、支部ホームページの運用に関しては、抜本的な見直しが必要と考えられた。
- 8.小児臨床化学分科会 (会長：戸谷誠之、昭和女子大学大学院生活機構研究専攻)
- 現在活動は休眠状態である。
- 9.病態解析分科会 (会長：渡邊 卓、杏林大学医学部)
- 1.各種腫瘍における HMGI(Y)遺伝子およびタンパクの発現と臨床病理学的諸因子との関連の検討：主として消化器系腫瘍を対象にした検討を行い、結果の一部はすでに出版中および投稿中となっている。
 - 2.第 20 回・第 21 回関東支部例会の開催：検査情報システム分科会と共催で支部例会を開催した。当分科会として、杏林大学公衆衛生学の大野秀樹教授によるスーパーオキシドディスムターゼ (SOD) に関する教育講演を企画した。
- 10.脂質・リポタンパク (会長：青木芳和、神奈川予防医学協会)

現在活動は休眠状態である。

- ・特記事項

分科会会長は青木芳和氏に変更になりました。

平成 13 年度日本臨床化学会関東支部分科会会計報告

1.血液ガス・電解質分科会会計報告（会長：桑 克彦、筑波大学医療技術短期大学部）

収入	
前年度繰越金	26,057-
平成 13 年度活動費	70,000-
支出	
郵送費	11,220-
印刷費	30,300-
消耗品費	10,297-
事務費	42,950-
計	94,767-
次年度繰越金	1,290-

2.標準分科会会計報告（会長：中山年正、（財）緒方医学化学研究所）

収入	
前年度繰越金	20,133-
平成 13 年度活動費	70,000-
支出	
郵送費	30,200-
印刷費	21,500-
消耗品費	2,200-
事務費	6,100-
計	60,000-
次年度繰越金	30,133-

3. クオリティ・アシュアランス分科会会計報告（会長：大澤 進、千葉大学
病院）

収入の部

内 容	単 価	個 数	小 計	備 考
活動補助金	70,000	1	70,000	
			164,932	
			234,932	

支出の部

内 容	単 価	個 数	小 計	備 考
会議費			37,500	
交通費			17,500	
通信費			4,000	
会場費				
謝礼費			50,000	
印刷費			7,800	
その他				
合 計			116,800	
次年度繰越金			118,132	

4.分析技術分科会（会長：芳賀 利一、三井記念病院中央検査部）

収入の部

内 容	単 価	個 数	小 計	備 考
活動補助金	70,000	1	70,000	平成 13 年度分
前年度繰越金			52,586	
そ の 他			36	利息
合 計			122,622	

支出の部

内 容	単 価	個 数	小 計	備 考
会 議 費			0	
交 通 費			0	
通 信 費			0	
会 場 費			0	
謝 礼 費			0	
印 刷 費			1,200	
試 薬 代			0	
そ の 他			0	
合 計			1,200	
次年度繰越金			121,422	

5.遺伝子分科会会計報告（会長：内村 英正）

収入の部	活動補助金	70,000
	前年度繰越金	83,440
	利息	12
	<hr/>	
	合計	153,452

支出の部

	住所ラベル	10,720
	振込手数料	262
	その他	
	電気泳動講習会協賛費	100,000
	<hr/>	
	振込手数料	420
	合計	111,402

次年度繰り越し 42,050

6.免疫化学分科会（高木 康、昭和大学医学部臨床病理）
未送金

7.検査情報システム分科会（会長：西堀眞弘、東京医科歯科大学検査部）

収入の部

内 容	単 価	個 数	小 計	備 考
活動補助金			70,000	
前年度繰越金			210,089	
その他			125	預金利息
合計			280,214	

支出の部

内 容	単 価	個 数	小 計	備 考
会議費			0	
交通費			0	
通信費	50	650	32,500	合同例会案内状
会場費			6,958	合同例会会場（東京医科歯科大学 1号館9階特別講堂）使用料
謝礼費			0	
印刷費	21	650	13,650	合同例会案内状
その他			420	振込手数料
合 計			53,528	
残金の部				
次年度繰越金			226,686	

8.小児臨床化学分科会（会長：戸谷誠之、昭和女子大学大学院生活機構研究専攻）

休眠状況で活動費の配分は受けていない。

9.病態解析分科会（会長：渡邊 卓、杏林大学医学部）

年	月	日	摘要	項目	収入	支出	差引残金
13	9	7	日本臨床化学会関東支部より 分科会運営費		70,000		70,000
	9	21	会員住所ラベル代	通信費		10,910	59,090
	9	21	振り込み代	雑費		105	58,985
	10	5	封筒	雑費		100	58,885
	10	6	講演謝礼(第20・21回支部例会)	会議費		30,000	28,885
	10	6	会議飲み物代(第20・21回支部例会)	会議費		2,105	26,780
			次年度繰り越し				26,780

10.脂質・リポタンパク（会長：青木芳和、神奈川予防医学協会）

活動が無いため会計報告はありません。

日本臨床化学会 関東支部
2001年度収支計算書
(2001年1月1日～2002年3月31日)

資料6-1

1. 収入の部

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
支部通信管理費	800,000	804,000	-4,000	@2,000×402名
準会員協賛金	0	0	0	
本部補助金	295,000	295,000	0	
準備金返金	350,000	145,000	205,000	地区会 145,000
雑収入	100	189	-89	
当期収入合計	1,445,100	1,244,189	200,911	
前年度繰越金	1,221,108	1,221,108	0	
合 計	2,666,208	2,465,297	200,911	

2. 支出の部

科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
事業費	1,400,000	890,000	510,000	
学術集会貸付金	400,000	400,000	0	総会,地区会 各 200,000
機関誌発行補助金	500,000	0	500,000	
分科会活動費	500,000	490,000	10,000	@70,000 × 7分科会
管理費	725,000	664,347	60,653	
業務委託費	375,000	377,527	-2,527	
通信費	100,000	59,090	40,910	
会議費	200,000	164,190	35,810	
雑費	50,000	63,540	-13,540	印刷費, 振込手数料他
予備費	0	0	0	
当期支出合計	2,125,000	1,554,347	570,653	
次年度繰越金	541,208	910,950	-369,742	
合 計	2,666,208	2,465,297	200,911	

貸借対照表

2002年3月31日現在

(単位：円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
預け金	-557,279	前受金	536,000
普通預金	1,450,029		
郵便振替	535,610		
前払金	18,590	次年度繰越金	910,950
		前年度繰越金	1,221,108
		当期収支差額	-310,158
合 計	1,446,950	合 計	1,446,950

財産目録


(2002年3月31日現在)

資産の部		
預け金	学会事務センター預け金	-557,279
普通預金	第一勧業銀行本郷支店	1,450,029
郵便振替	郵政事業庁貯金局	535,610
前払金	14年度分手数料負担分	18,590
負債の部		
前受金	14年度分支部通信管理費	536,000

監査報告書

日本臨床化学会関東支部の2001年度(2001年1月1日～2002年3月31日)
収支計算書、貸借対照表及び財産目録について監査した結果、適正かつ
正確に記載されていることを認めます。

2002年9月14日

監事 内村英正 

監事 笠原 清 

平成 1 4 年度関東支部事業計画

1. 日本臨床化学会関東支部総会は平成 1 4 年 9 月 2 1 日に横浜にて開催される日本臨床検査医学会関東・甲信越支部総会において日本臨床化学会関東支部の協賛にて開催する。
2. 関東支部例会・地区会は I F C C の開催の為、中止する。
3. 『日本臨床化学会関東支部あり方検討委員会』の最終答申を基により平成 1 4 年 5 月 1 7 日および、9 月 3 日に開催された支部常任幹事会（東大病院）において討議し、平成 1 5 年以降の支部活動の方針、また、日本臨床化学会関東支部会誌について立案した。
4. 平成 1 4 年 9 月 2 1 日に横浜にて開催される日本臨床化学会関東支部総会において、平成 1 5 年以降の支部活動の方針、また、日本臨床化学会関東支部会誌の移行について報告を予定している。

平成 1 5 年度関東支部事業計画

1. 日本臨床化学会関東支部学術総会は戸谷誠之会長（昭和女子大学）にて平成 1 5 年 5 月 2 4 日（土）に昭和女子大学において開催される予定である。
2. 日本臨床化学会関東支部学術例会は桑克彦会長（筑波大学医短大部）にて平成 1 5 年 9 月 2 7 日（土）に島津製作所イベントホールにおいて開催される予定である。

日本臨床化学会 関東支部
2002年度収支予算書
(2002年4月1日～2003年3月31日)

1. 収入の部

(単位：円)

科 目	2002予算額	2001決算額	2001予算額	摘 要
支部通信管理費	800,000	804,000	800,000	@2,000×400名
本部補助金	295,000	295,000	295,000	
準備金返金	350,000	145,000	350,000	
雑収入	100	189	100	
当期収入合計	1,445,100	1,244,189	1,445,100	
前年度繰越金	910,950	1,221,108	1,221,108	
合 計	2,356,050	2,465,297	2,666,208	

2. 支出の部

科 目	2002予算額	2001決算額	2001予算額	摘 要
事業費	1,150,000	890,000	1,400,000	
学術集会貸付金	400,000	400,000	400,000	総会,地区会 各 200,000
機関誌発行補助金	250,000	0	500,000	
分科会活動費	500,000	490,000	500,000	
管理費	680,000	664,347	725,000	
業務委託費	375,000	377,527	375,000	印刷費, 振込手数料他
通信費	75,000	59,090	100,000	
会議費	180,000	164,190	200,000	
雑費	50,000	63,540	50,000	
予備費	0	0	0	
当期支出合計	1,830,000	1,554,347	2,125,000	
次年度繰越金	526,050	910,950	541,208	
合 計	2,356,050	2,465,297	2,666,208	